

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるように!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

(平成8年5月20日第三種郵便物認可)

2006(平成18)年4月15日 第397号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭
発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話03-3269-1131
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)



「姉妹森」調印式場 アファンフォレストパーク(南ウェールズ)
写真提供:本間講子氏(2面関連写真)

今月の主な紙面

- 1面 学校保健セミナー「春の健診を迎えるにあたって」
平成17年度理事会・評議員会を開く・本会
日本医師会新会長に唐澤祥人氏
- 2-3面(見開き)
新連載「たばこ問題とその規制対策」第1回
連載「森林へ行こう」最終回
話題 胸部CT検診研究会を発展・拡大し
第13回日本CT検診学会が開催
新連載 健康づくり・健康増進を支援するページ
実践編 第1回
- 4面 質の高い学校検診をめざして
心臓検診、腎臓・糖尿病検診の打ち合わせ会開く
ドクターミーティングを開催・本会
東京都予防医学協会年報2006年版ができました

学校保健セミナー

「春の健診を迎えるにあたって」

今、全国の小・中・高等学校では一斉に児童・生徒の健康診断が行われている。東京都学校保健会と本会が主催する学校保健セミナーでは、「春の健康診断を迎えるにあたって」を共通テーマに、「学校腎臓検診」(第224回・3月27日)、「学校心臓検診」(第225回・3月29日)を東京・市谷で開催し、村上睦美日本医科大学名誉教授(写真上)と、浅井利夫東京女子医科大学東医療センター教授(写真下)がそれぞれ講演した。2つのセミナーには養護教諭を中心とする学校関係者らあわせて約260人が参加し、熱心に耳を傾けていた。今月はその概要を報告する。

腎臓検診、心臓検診の成果や 今後の学校健診のあり方で講演

学校腎臓検診について講演した村上名誉教授は、学校腎臓検診の指導ならびに腎疾患児の治療や指導に携わり、現



在は日本小児保健協会会長として小児保健に取り組んでいる立場から、腎臓検診の有用性と現状、検診の流れ、学校検尿陽性者の管理と指導の考え方を解説した。学校

検尿は腎臓病の早期発見に有効であること、早期発見された糸球体腎炎は治療効果が高いこと、わが国の慢性透析患者数は増加の一途をたどっているが、若年層では横ばいとなっていること、学校検尿を受けた世代で人工透析や腎移植に進行するまでの時間が延長していることなどについてデータをもちに解説し、学校検尿の意義を強調した。

そのうえで、学校検尿の実施状況や、どのような疾患がどの程度発見されるかを示し、「微量血尿や血尿単独が発見された場合、病気が見つ

かる頻度は低く、きちんと経過観察を行うだけでよい。蛋白尿のみの場合は、生理的な蛋白尿の可能性もあるため、蛋白尿かどうかの確認が重要。蛋白尿と血尿の両方がみられる場合には、専門医を受診して精密検査を行うことが望ましい」とした。

また、運動が腎臓病に与える影響に関するさまざまな研究データを紹介し、「腎臓病をもつ子どもにどの程度の運動を許可できるか医学的には明らかにされていない。血尿単独陽性や軽度蛋白尿の子もは運動によって病態が悪化

することはないが、糸球体腎炎の子どもでは運動負荷によって蛋白尿が増加することが報告されている。このためこのような子どもでは慎重な対応が求められる」と述べた。

さらに講演では、学校生活管理指導表の基本的な考え方や使用上の要点、管理区分設定の目安、日本学校保健会による「腎臓手帳」「新・学校検尿のすべて」なども紹介した。

いつづつ、学校心臓検診について講演した浅井教授は、管理指導表の基本的な考え方や使用上の要点、管理区分設定の目安、日本学校保健会による「腎臓手帳」「新・学校検尿のすべて」なども紹介した。



小児循環器専門医として、心臓検診の指導、心疾患児の治療や指導などにあたってきた。その経験をもとに、時代に即した学校健診のあり方や

講演の後半には、心肺蘇生の国際ガイドラインの内容や、わが国で一般市民によるAEDの使用が認められるようになった経緯、AEDの普及に関する今後の展望などを示したほか、実際のAEDの紹介なども行った。

浅井教授は、「学校へのAEDの設置にあたっては、小児に対する有用性や管理方法、経済性などについての慎重な議論が必要だ。まずは、連絡網の確立や心肺蘇生法の習熟など、基本的な体制の整備が求められる」と述べた。

日本医師会 新会長に 唐澤祥人氏

日本医師会(会員数約16万3000人)は4月1日、任期満了にともなう会長選挙を行い、唐澤祥人東京都医師会会長を新会長に選出した。任期は2年間。

就任にあたって唐澤新会長は、「国民のための医療を推進するために政策を提言実行して行く」と述べている。

平成17年度理事会・評議員会を開く本会

東京都予防医学協会の平成17年度第3回理事会および第2回評議員会が3月29日、都内のホテルで開催された。

冒頭、あいさつに立った北川照男理事長は、依然として厳しい経済状況のなか、17年度の事業をほぼ予定通り遂行できたことを報告して、関係者の理解と協力に謝意を表し、次のように述べた。

「18年度は、がんの予防対策とくに女性のがん対策を大いに推進する。17年度は、その一環としてマンモグラフィ搭載車を1台増車した。これにより、乳がん検診の受診率の増加と死亡率の減少に貢献したい。また、人間ドック受診者の増加に対応して施設を拡充した。質の高い保健指導と合わせて、メタボリックシンドロームなど生活習慣病対策の充実を図っている。このほか、学校保健のほかに、母子保健などの領域でも、より精度の高い検査とサービスの行き届いた健診・保健指導を提供して顧客の期待に応えたい。」

この後、理事会は北川理事長を議長に、評議員会は國井渉評議員を議長に選出し、平成18年度の事業計画案と収支予算案の審議を行い、いずれも満場一致で承認された。

個人情報の取扱いについて

日ごろより、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。

これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。そのうえで今後も継続して送らせていただきたいと考えております。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

お問い合わせ・ご相談は 予約制)
電話 東京(03)3269-1141

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1の2
(財)東京都予防医学協会

コンサルテーションのご案内

- 5月 3日 祝日のため休み
- 10日 岡 惺治(健康管理コンサルタント)
- 17日 三輪祐一(東京都予防医学協会総合健診部長)
- 24日 岡 惺治
- 31日 第207回ヘルスケア研修会につき休み

- 6月 7日 岡 惺治
- 14日 三輪祐一
- 21日 岡 惺治
- 28日 三輪祐一

質の高い学校検診をめざして

心臓検診、腎臓・糖尿病 検診の打ち合わせ会開く



本会では、学校検診を円滑に実施し、関係者間の健全な連携を深めるために、小児の循環器、腎臓病、糖尿病の専門医に集まってもらって、それぞれの検診の打ち合わせ会を開いている。今年も、心臓検診、腎臓病検診、糖尿病検診の打ち合わせ会(写真上)が3月3日に、腎臓・糖尿病検診打ち合わせ会(写真下)が3月10日に開かれた。打ち合わせ会には、本会の検診を指導し、検診で異常がみつかった子どもたちの診断・治療を担当している専門医や、本会の学校検診担当スタッフあわせて約60人が出席し、検診を実施するうえでのさまざまな問題を討議し、関係者間の共通理解と連携を深めた。

打ち合わせ会では、心臓検診、腎臓・糖尿病検診それぞれについて、平成18年度の実施地区と予定件数、各地区の実施日程などの具体的な打ち合わせと確認が行われ、今後の検診のあり方などについて、さまざまな意見が交わされた。

このうち心臓検診の打ち合わせ会では、17年度の実績について、1次検診の抽出内訳や2次検診、精密検査の結果、2次検診、精密検査の対象となりながら受診していない「未受診者」の内訳などが報告された。また、日本小児循環器学会

による「学校心臓検診2次検診対象者抽出のガイドライン」の改訂を受けて、2次検診対象者の抽出にあたっての変更点なども確認された。いっぽう腎臓・糖尿病検診の打ち合わせ会では、17年度の3次検診時における暫定管理の結果報告が行われた。この暫定管理は、検診日程の関係でプール授業が始まる6月上旬までに暫定診断が出ない地域で、できる限りプールを制限しないための一時的な措置として、3次検診で専門医の診察を受けた段階でプールの可否についての暫定的な管理区分を出すものである。これまでの検討で、暫定管理の内容と暫定診断の内容に大きな違いがないことや、実施した9地区の学校現場から好評を得ていることから、18年度も暫定管理を継続していくことが確認された。

なお、今回の打ち合わせ会に参加した専門医は次の各氏である(順不同、敬称略)。

心臓検診
原田研介(日本大学教授)、
鮎澤衛(同大学講師)、浅井利夫(東京女子医科大学教授)、
伊藤けい子(同大学講師)、
土井庄三郎(東京医科大学講師)、
池上英(日本医科大学)、
関一郎(都立墨東病院部長)、
石井正浩(北里大学教授)、
佐地勉(東邦大学教授)、
山岸敬幸(慶應大学講師)、
伊東三吾(都立広尾病院副院長)、
稀代雅彦(順天堂大学)、
渡辺直幸(杏林大学講師)

腎臓・糖尿病検診
村上睦美(日本医科大学名誉教授)、
土屋正巳(同大学講師)、
五十嵐徹(同大学)、
五十嵐隆(東京大学教授)、
関根孝司(同大学助教授)、
高橋昌里(日本大学講師)、
大友義之(順天堂大学講師)、
松山健(公立福生病院副院長)、
楊國昌(杏林大学助教授)、
大森多恵(都立墨東病院)、
亀井宏一(国立成育医療センター)、
横谷進(虎ノ門病院部長)、
伊藤文之(東京慈恵会医科大学教授)、
田中絵里子(武蔵野赤十字病院)、
北川照男(日本大学名誉教授)

ドクターミーティングを開催 本会

本会では例年、健康診断に従事している医師と本会の関係スタッフが一堂に会するドクターミーティングを開催し、現場で起こる問題や課題を話し合い、共通理解を深めることにも、健診の効率化や精度の向上を図っている。

さる3月18日、保健会館別館で行われたミーティングには、地域や職域の健診を担当する医師を中心に、北川照男本会理事長、小野良樹事務局長をはじめ、健康教育事業本部、クリニック、検査研究センター、総合健診部、看護部、健康増進部、統計事務部などのスタッフ約50人が出席した。

ミーティングでは、18年度の事業概要や健診時の診察で注意すべき点などの解説、ユイザーからの要望への対応やプライバシーに配慮したよりよい健診のあり方などが話し合われたほか、
島山雅行奈良産業保健推進センター相談員が、「石綿健診の診察上の留意点」と題した講演を行った。また、会場を移して開かれた懇親会では、和気あいあいの交流が行われた。

当日会場受付で、参加費2000円を支払えばどなたでも入場できます。定員先着400人。

第207回ヘルスケア研修会 健康づくりのための 健診事後支援の評価 その支援方法と成果

5月31日(水)午後2~4時
東京・永田町「星陵会館」

お知らせ

東京都予防医学協会年報 2006年版 第35号 (平成16年度活動報告)ができました

各分野の執筆者とテーマは下記のとおりです(敬称略)



[学校保健]

- 心臓病検診「心臓病検診の実施成績」浅井利夫(東京女子医科大学教授)
- 腎臓病検診「腎臓病検診の実施成績と分析」村上睦美(日本医科大学名誉教授)
- 糖尿病検診「小児糖尿病検診の実施成績と管理上の問題点およびその対策について」浦上達彦(日本大学講師)
- 「学童糖尿病検診30年 - 小児期発症2型糖尿病の薬物療法」大和田操(女子栄養大学大学院教授)
- 脊柱側彎症検診「脊柱側彎症検診の実施成績」大塚嘉則(国立病院機構千葉東病院名誉院長)
- 小児生活習慣病予防健診「小児生活習慣病予防健診の実施成績」本会地域保健部
- 貧血検査「貧血検査の重要性と実施成績」前田美穂(日本医科大学助教授)
- 寄生虫検査「寄生虫検査(学校保健分野)の実施成績」本会検査1部・地域保健部

[地域・職域保健]

- 定期健康診断・基本健康診査「定期健康診断の集計結果」須賀万智(聖マリアンナ医科大学講師)
- 「住民健診への協力」本会統計事務部
- 特殊健康診断「特殊健康診断の実施状況」三輪祐一(本会総合健診部)
- 保健指導事業「保健指導の実施概要」本会健康増進部
- 人間ドック「人間ドックの活動」小野良樹(本会クリニ

ック)

- 超音波検査「超音波検査の実施成績」本会検査1部
- クリニックの外来診療「クリニック部門の活動」小野良樹(本会クリニック)

[母子保健]

- 東京産婦人科医会との協力による子宮がん細胞診「子宮がん細胞診(頸がん・体がん)の実施成績とその分析」長谷川壽彦(本会検査研究センター)
- 「東母精密検診(2次検診)センターの活動状況(31報・2004年度)」塚崎克己(慶應義塾大学助教授)
- 東京産婦人科医会との協力による乳房検診「東母乳房検診の実施成績」榎本耕治(山王病院)
- 妊婦甲状腺機能検査「妊婦甲状腺機能検査の実施成績」百深尚子(本会内分泌科)
- 性感感染症検査「東京都におけるクラミジアおよび淋菌の検査成績」松田静治(性の健康医学財団副理事長)
- 新生児スクリーニング検査「新生児の先天性代謝異常症のスクリーニング成績(第27報)」鈴木健(本会検査研究センター)
- 「先天性代謝異常症の新生児スクリーニング-30年のかかわり」大和田操(女子栄養大学大学院教授)
- 「先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)の新生児スクリーニング成績-スクリーニングの現状と今後の課題」杉原茂孝(東京女子医科大学教授)
- 「先天性副腎過形成症のマス・スクリーニング成績」豊浦多喜雄(東京医科大学歯科大学講師)

[がん検診]

- 胃がん検診「胃がん検診の実施成績」本会放射線部
- 肺がん検診「アスベストと健康障害」松井英介(東京から肺がんをなくす会)
- 「東京から肺がんをなくす会の活動状況」東京から肺がんをなくす会事務局
- 大腸がん検診「有効性評価に基づく大腸がん検診ガイドラインについて」濱島ちさと(国立がんセンターがん予防・検診研究センター室長)
- 「大腸がん検診(便潜血反応検査)の実施概況と課題」本会検査1部
- 子宮がん検診「子宮がん検診の実施成績」伊藤良彌(本会婦人検診部)
- 乳がん検診「乳がん検診の実施成績」本会総合健診部・放射線部

[生活環境検査]

- 生活環境検査「生活環境検査の実施状況」本会検査2部
- 「全面改正された水道水質基準と水質検査の実態」田村行弘(本会学術委員)

[VI 研究・健康教育活動]

- 学会、研究会での研究発表/健康教育活動/2004年度の本会の概要

この「年報」をご希望の方は、東京都予防医学協会広報室(電話03 3269 1131)までお問い合わせください。

人・往来

中国貴州省道真県・雷山県住民参加型総合貧困対策モデルプロジェクトの研修員が本会を視察・見学

家族計画国際協力財団(ジョイセフ)では、3月27日から4月14日の19日間、中国貴州省道真県・雷山県住民参加型総合貧困対策モデルプロジェクトカウンターパート研修の研修員を2人受け入れた。その研修員が4月4日、本会を訪れ、本会の事業を研修し、施設を見学した。